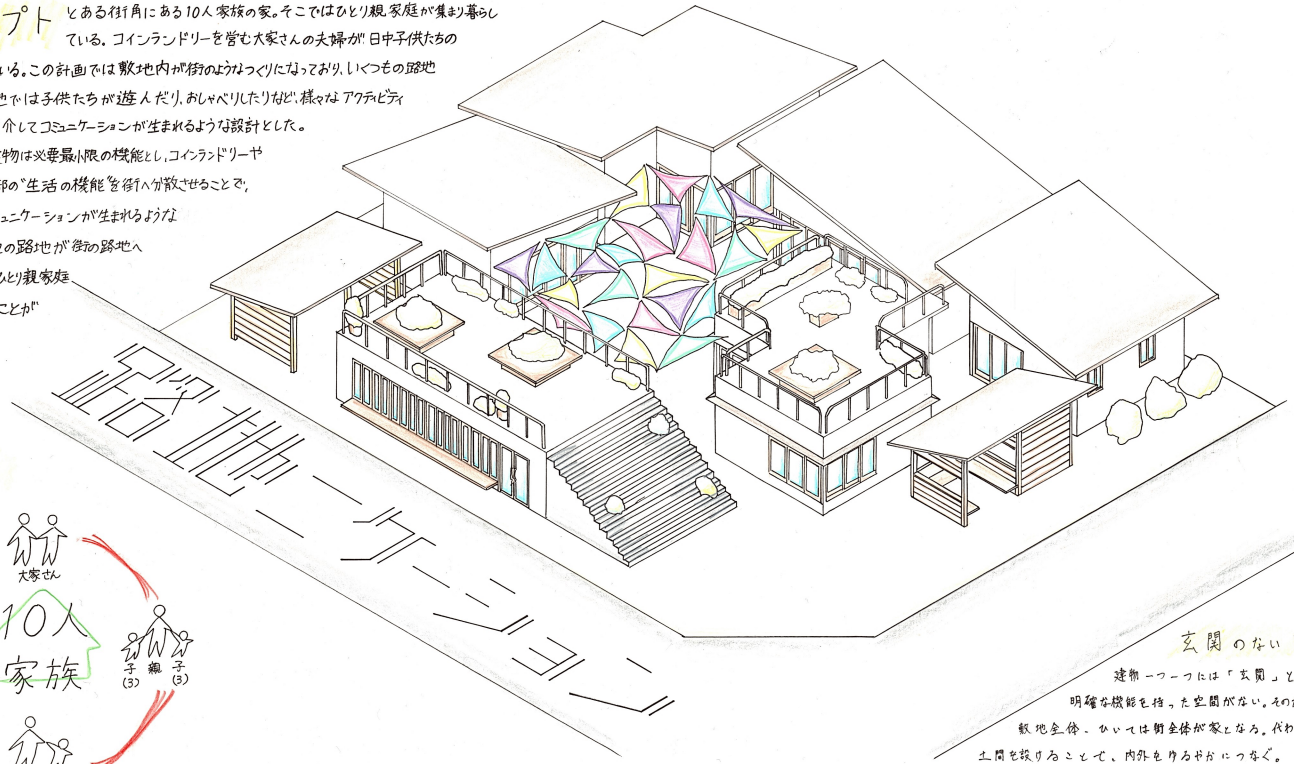


コンセプト

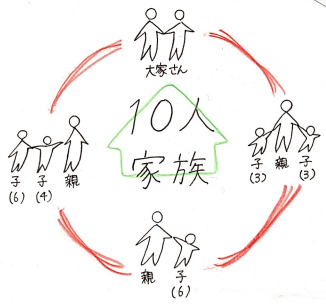
とある街角にある10人家族の家。そこではひとり親家庭が集り暮らし

ている。コインランドリーを管も大家さんの夫婦が日中子供たちの

面倒をみてくれる。この計画では敷地内が街のようになり、いくつもの路地
が通っている。路地では子供たちが遊んだり、おしゃべりしたりなど、様々なアクティビ
が起こる。路地を介してコミュニケーションが生まれるような設計とした。
また、一つ一つの建物は必要最小限の機能とし、コインランドリーや
銭湯、カフェなど一部の生活の機能を管へ分散させることで、
街全体をひとつのコミュニティが生まれるような
計画とした。計画地の路地が街の路地へ
つながり、街全体でひとり親家庭
を支え、子供を見守ることが
できると考える。

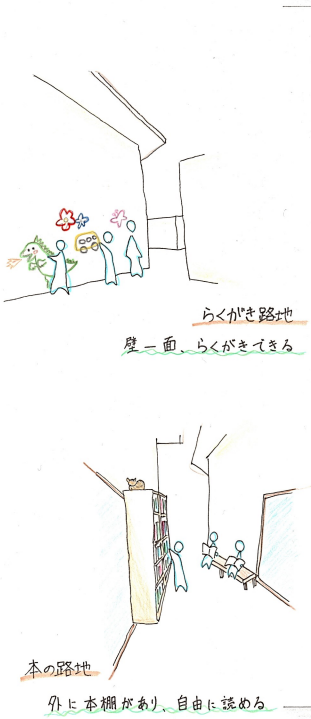


家族構成



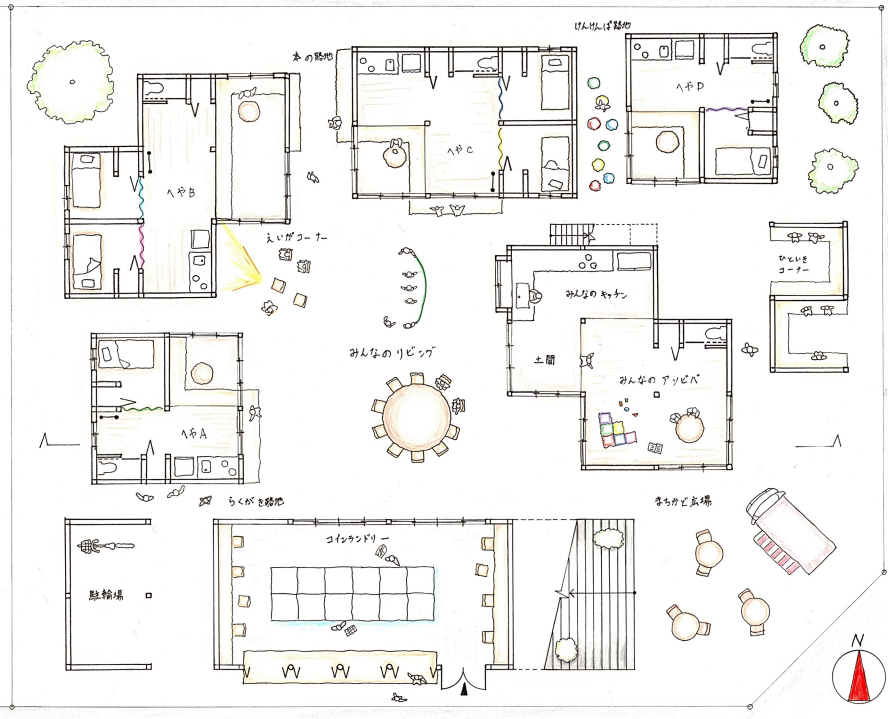
玄関のない家

建物は一つ一つは「玄関」という
明確な機能を持たない空間がない。そのため
敷地全体、あるいは閉鎖的な家となる。代わりに
土間を設けることで、内外をゆるやかにつなぐ。



らくがき路地
壁一面、らくがきできる

本の路地
外に本棚があり、自由に読める

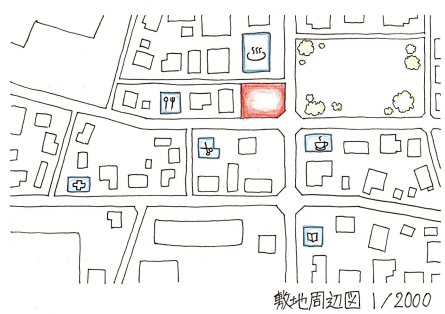


配置図兼平面図 1/100



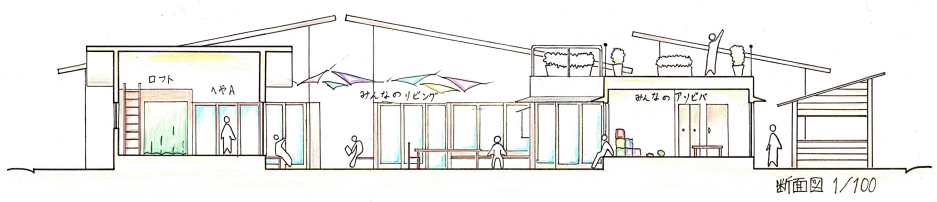
けんけんば路地
昔の日本の風景のように
子どもが路地で遊ぶ

まちかど広場
週末にはマルシェなどが開かれる

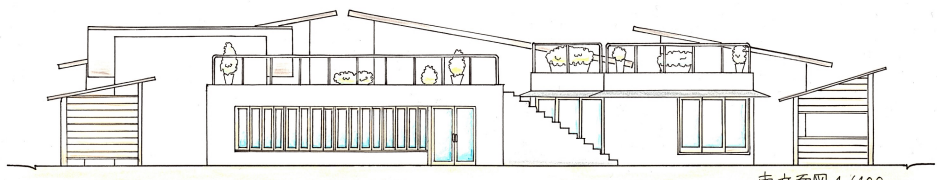


敷地周辺図 1/2000

お風呂へ入りに銭湯へ
洗濯をしにコインランドリーへ
街全体が暮らしの場となる



断面図 1/100



南立面図 1/100









